

防火策圖解中

三十二

78

1959

2



天邊
1959
2

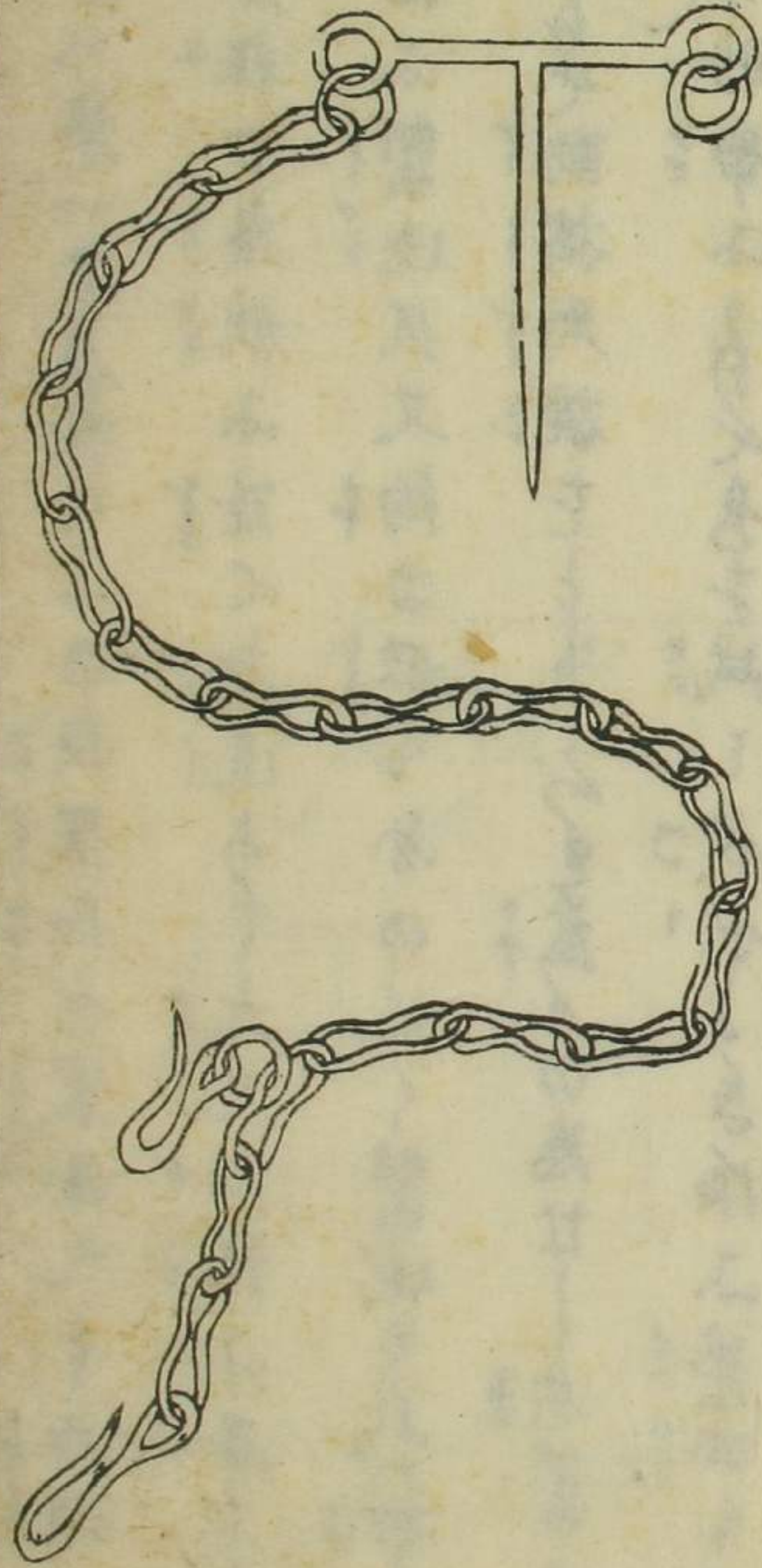
東京
帝國
圖書
印

東京
帝國
圖書
印

防火策圖解卷之下

第二
鐵鑠たたら共とも鉤かぎの圖

東壑翁 著



防火策圖解 卷下

東京
帝國
圖書
印

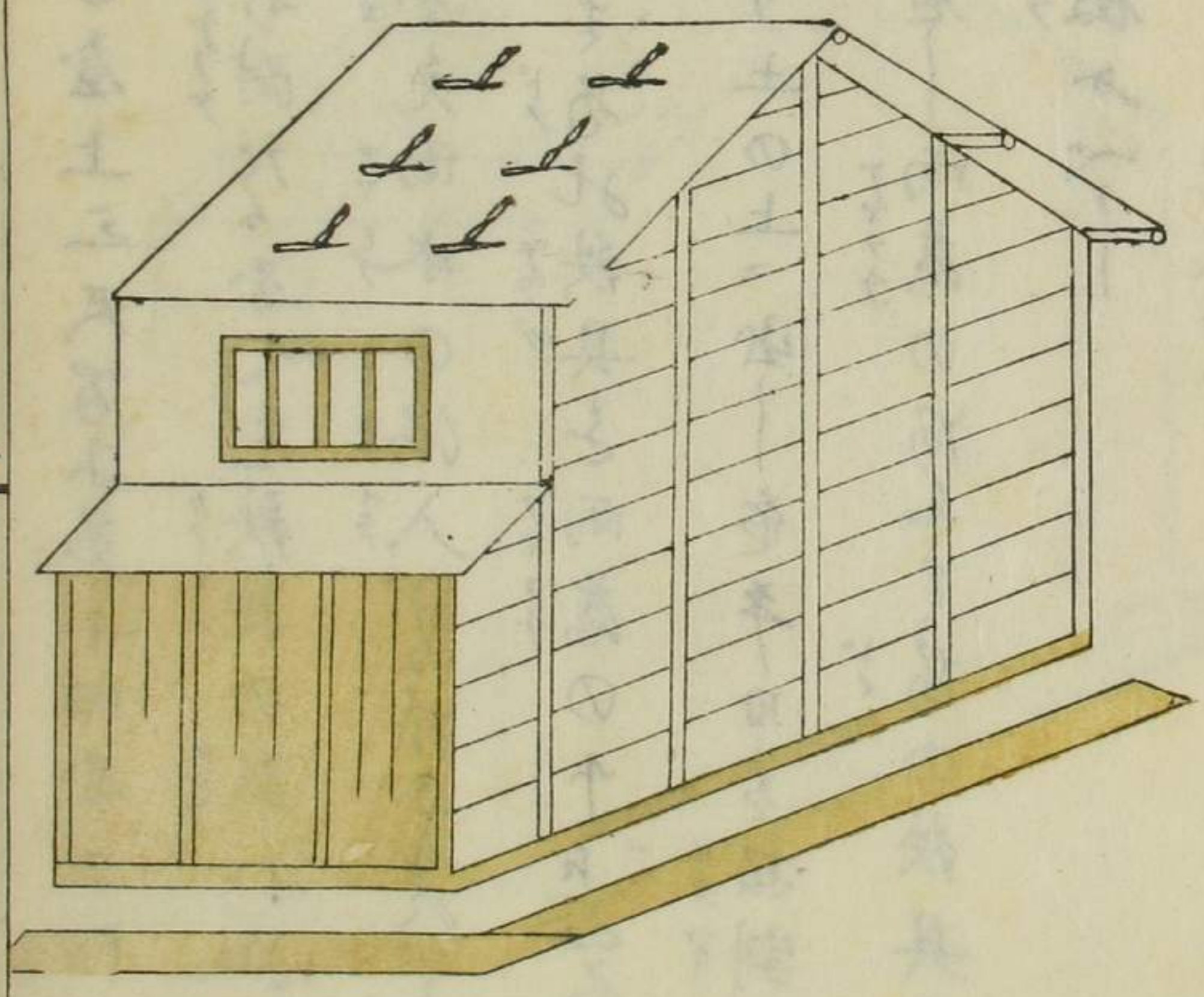
右ハ第一号屋根の上の鉄線角の畧名之ヲ長短ハ
 ヤ子カキキの度狭小タテに作イてお遠オホキヨス大凡四隅小届トクくシ
 造キ小製造キ以又角カキの形も畧カキの如く製造キを九キハ帯キ小
 動揺周旋ドクをともキなるキの患キはキ一キ尤製造キ
 の時帯キ小キの如くキをキ試キし便利キよき柵小築キ回キも改キ
 作キせキむキべキ一又平キの長短便利自在キなるキむキが
 為キ小延縮キの為キを作キて帯キより五六寸の長キ小附キ標キ
 の長短適キ宜キ小なるキ一め動容周旋キ以ともキ脱キ為キせ

ざる柵の如きの形小製作キをキべキ一

第三

柵算一軒
コト

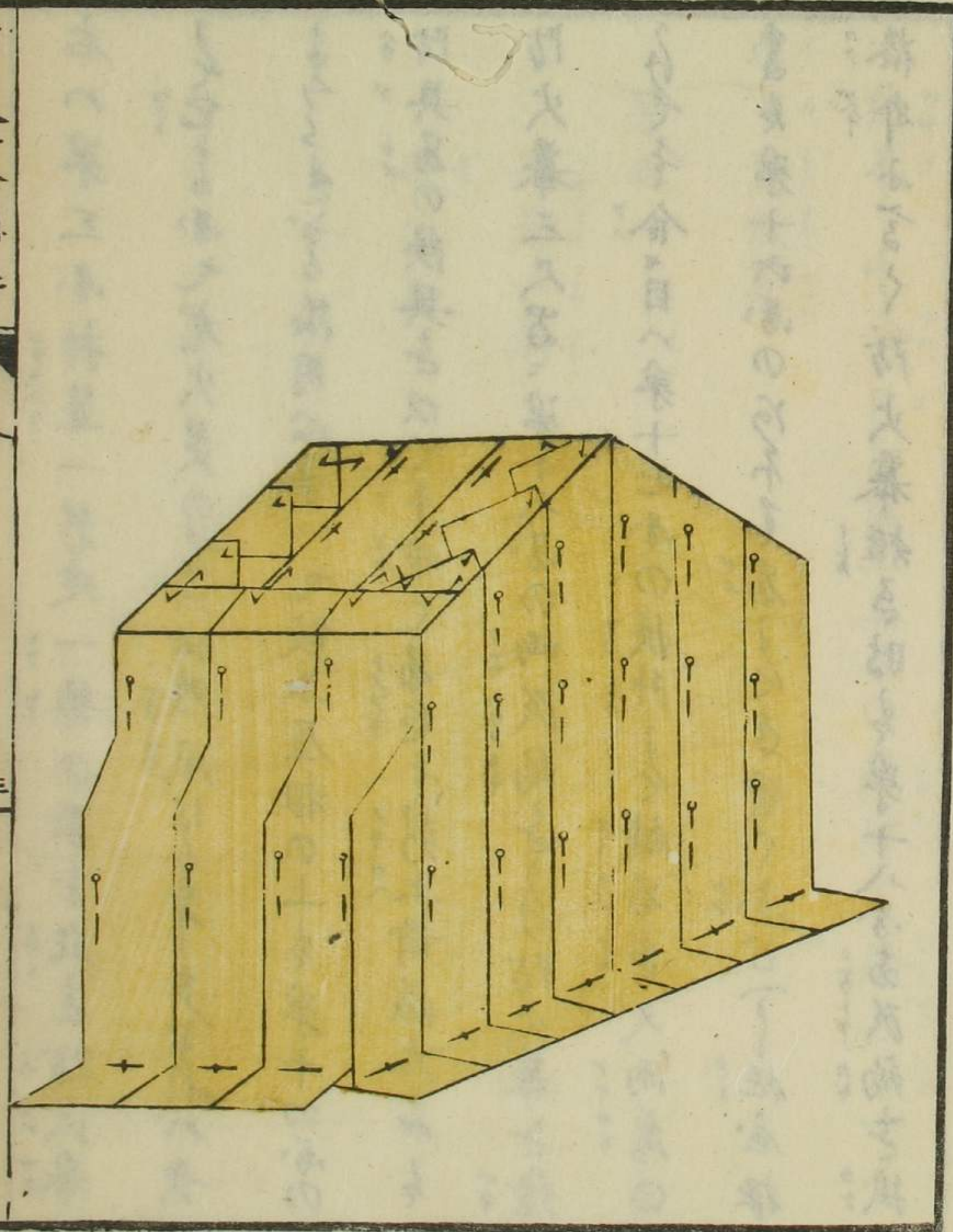
建キのキ為キ



方火築圖解 卷下

右を柿葺一軒建の屋上三尺留小第十四分の防具^{ハツグ}
 爲の鉄具を喰く^{カク}お附たる^{ウケツケ}爲之を鉄物^{カナモノ}の次ハ油石^{カシラ}
 灰を以て^{コイ}救回^{ユクキ}會を免^{ウケ}雨水の漏入^{モイラ}ざる^ガ根小^{ネコ}あ^ルべし
 又第十六分の^{ドク}所を^{テラ}爲此鉄具を^{アマチ}雨爲の^{ドク}下^ノに^{ドク}三尺留
 小^{ホリ}堀^コ邊^ミ燥^シ鉄^テ斗^ツり^バ土の上ニ^{イタ}出^サし^リを^イ平^ヘ日^ヒを^イ板^イ割^キを
 以て^{フタ}蓋^{フタ}を^{フタ}致^スし^テを^{フタ}包^フし^テ雨^{アメ}爲^チの^{ドク}所^ノを^{ドク}爲^スの^{ドク}鉄^テ具^キを
 以下^{ナラ}皆^{ナラ}同^{ナラ}根^{ナラ}是^{ナラ}小^{ナラ}堀^{ナラ}あ^ルべし

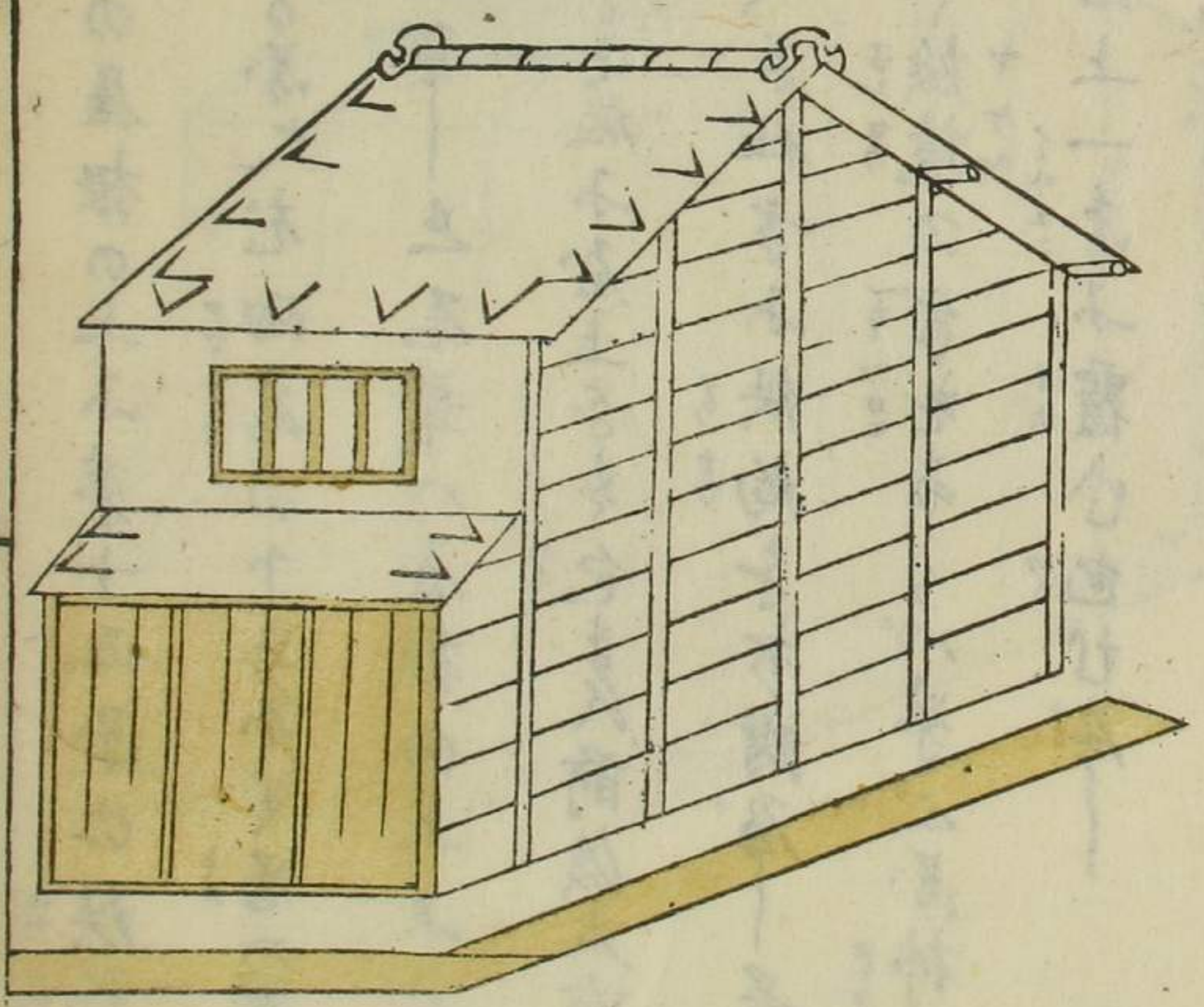
第四 柿葺一軒建屋上周圍とも包たる^{ツミ}爲



右ハ第三号柿葺一軒建一棟の敷を底と防火幕
 しく包ぐる敷之尤火災の良ハ必烈風がら半多きれば吹
 まうらまざる松用心第一之故小屋根の上を第十四号の
 防具用の鉄具を以て手喰く為を前上前後左右を
 防火幕三尺男ニ第十八号の両改鉤をうけ防火幕を終
 りて合目ハ第十七号の鉄針と縫為又兩層の
 敷を第十六号の所不し為しく手喰くを打へ小屋根
 格弁小言く防火幕短き時を第十八号改鉤を掛

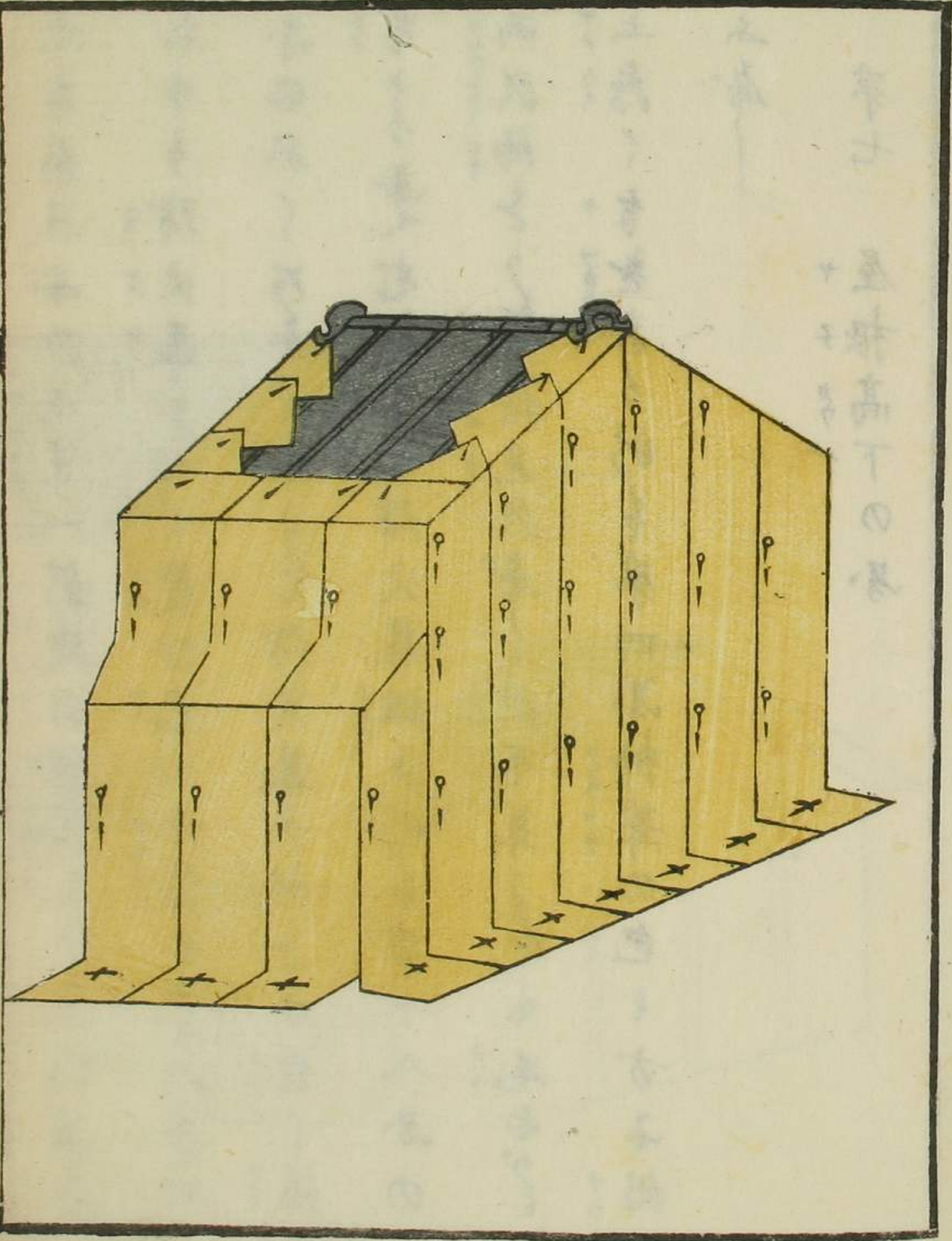
て終足一合目を第十七号の鉄針と縫為を
 以下皆倣之

第五
 瓦葺一軒
 建の敷



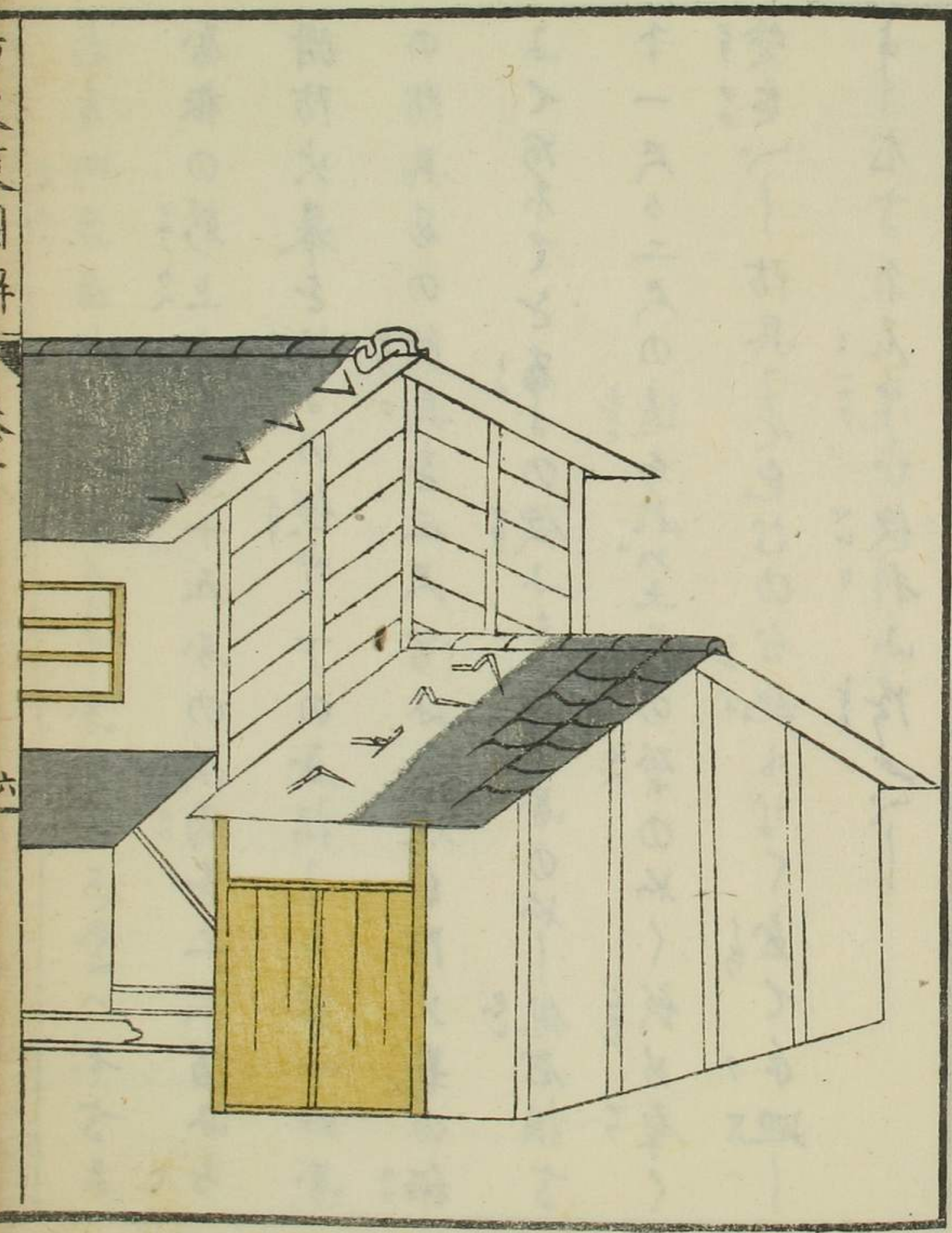
右ハ瓦葺一軒建の屋根の上小第十五号の鉄鉤を
カラフキ
 三尺五寸小打附る處之尤アノヲチ兩為の下あらず為ハ第三
 号と同振小堀込ホリコム上止瓦葺ハ屋根の上小火の
モユウ
 機移るべきの憂あき故小倉上を包マま長前後左右軒
バ
 端以下斗り包マむべき仕方小鉄鉤をお附オホる若尾
ウス
 ゆぐ尾下の土層チシヤく燃焼キツカの意をあらば第三号柿葺
ヤケル
 の仕法レ小チラ倉上イチニ一号小覆オホひ包マむる

第六 瓦葺一軒建を包マむるオホ



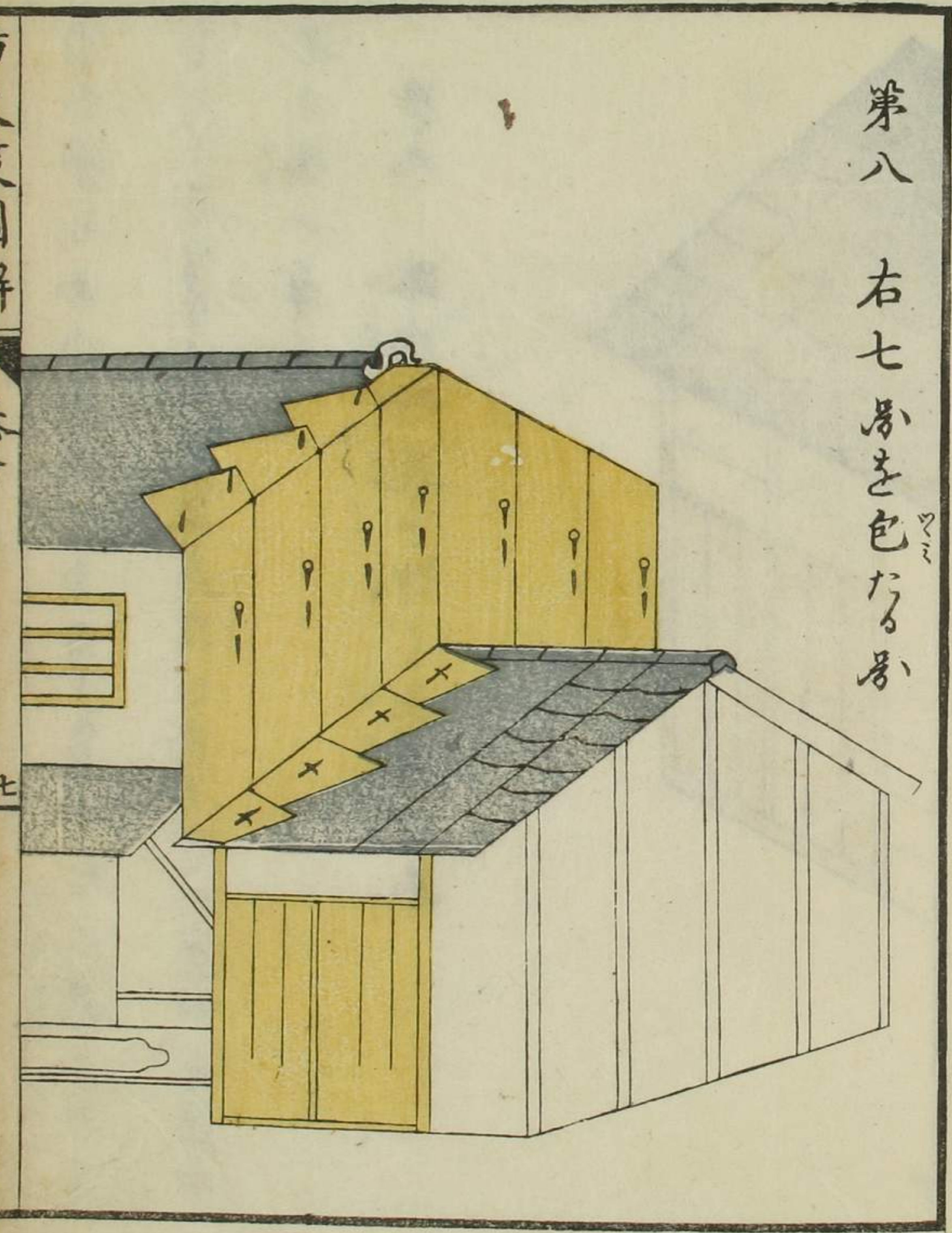
右方第五号の尾葺カハラフキ一新建の家形上より前後左
 右斗り防火幕を以て覆ひ包オホくツ両落の裏ハ第四
 号の如く行なはるド防火幕の裾スをテ密カくネ縫
 通トる号之キ棟タ言タく防火幕短ミき時タも第十八号の
 両改納リキリウシノカキをツギタとツギタはタ尾葺カもカら
 土落ツチウスくキツカき時タも第四号柿葺コシフキの包ツき方ナ小ナ倣
 ぶナ倣ナ

第七 屋根高下の号



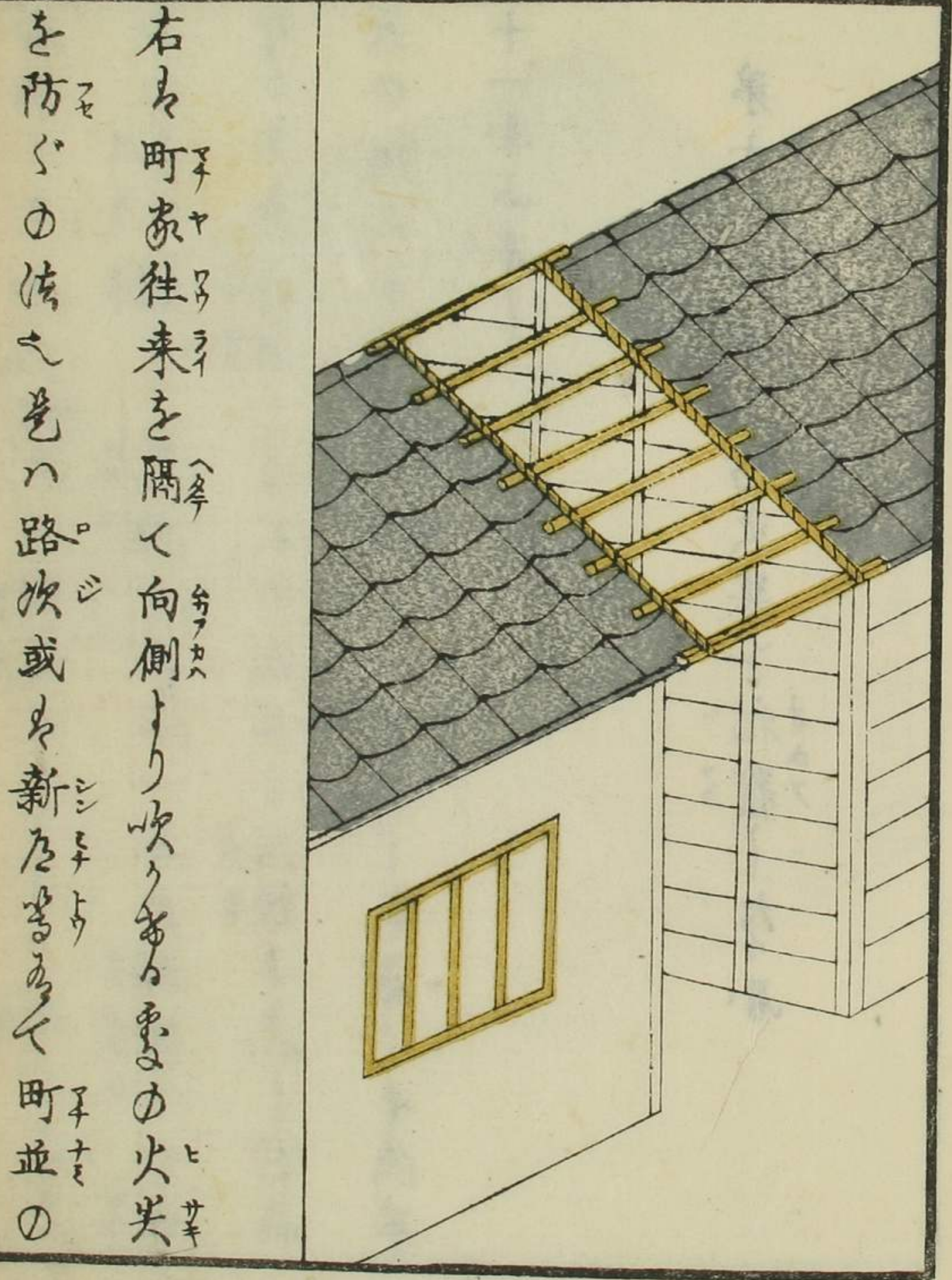
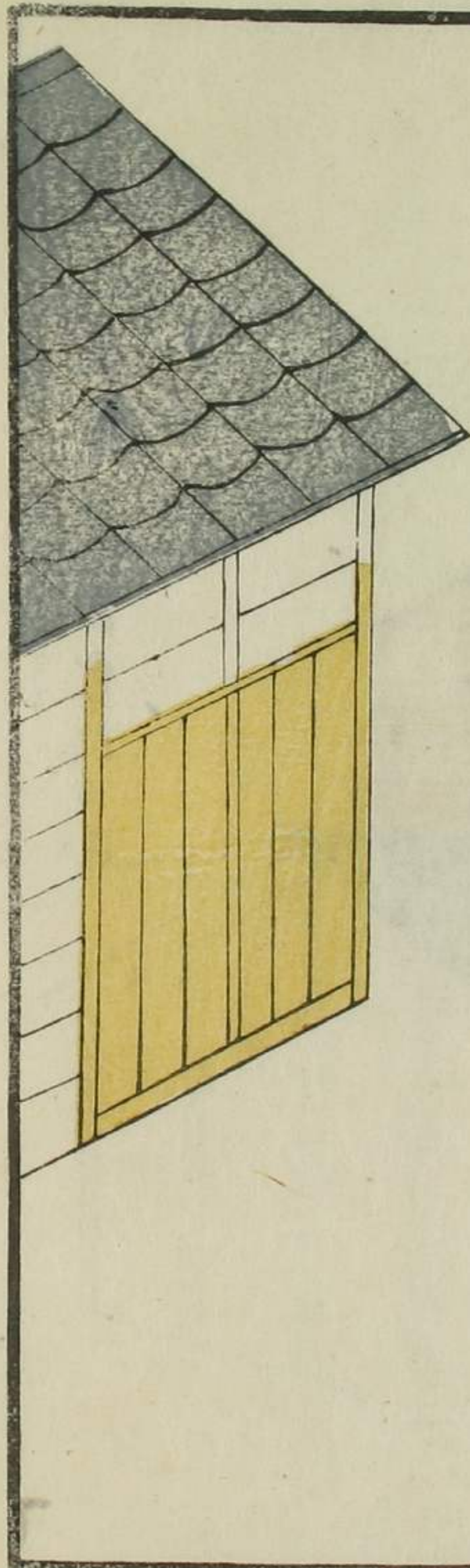
右方町並屋根高下ある車馬の如き要ハ其言ミ
 屋根の形上より第十五号の鉄筋を三尺留小
 防防火幕を掛るの便や下の屋根より第十四号
 の防具用の鉄具を三尺留小お込込防火幕の裾
 小て何不をを為すの便よ車馬の如く但屋根高
 下一尺二尺の遠あれば土着の壁の如く鉄め厚く
 塗るべし防具より包むの分配もなく至て手廻し
 小一尤も下尺中ハ便利小降しべし

第八 右七号を包たる号



右は第七号の屋根言下ある事を防火幕として
きたる号打を尤前後左右の包ミ方ハ第四号第六
号小使ハ登

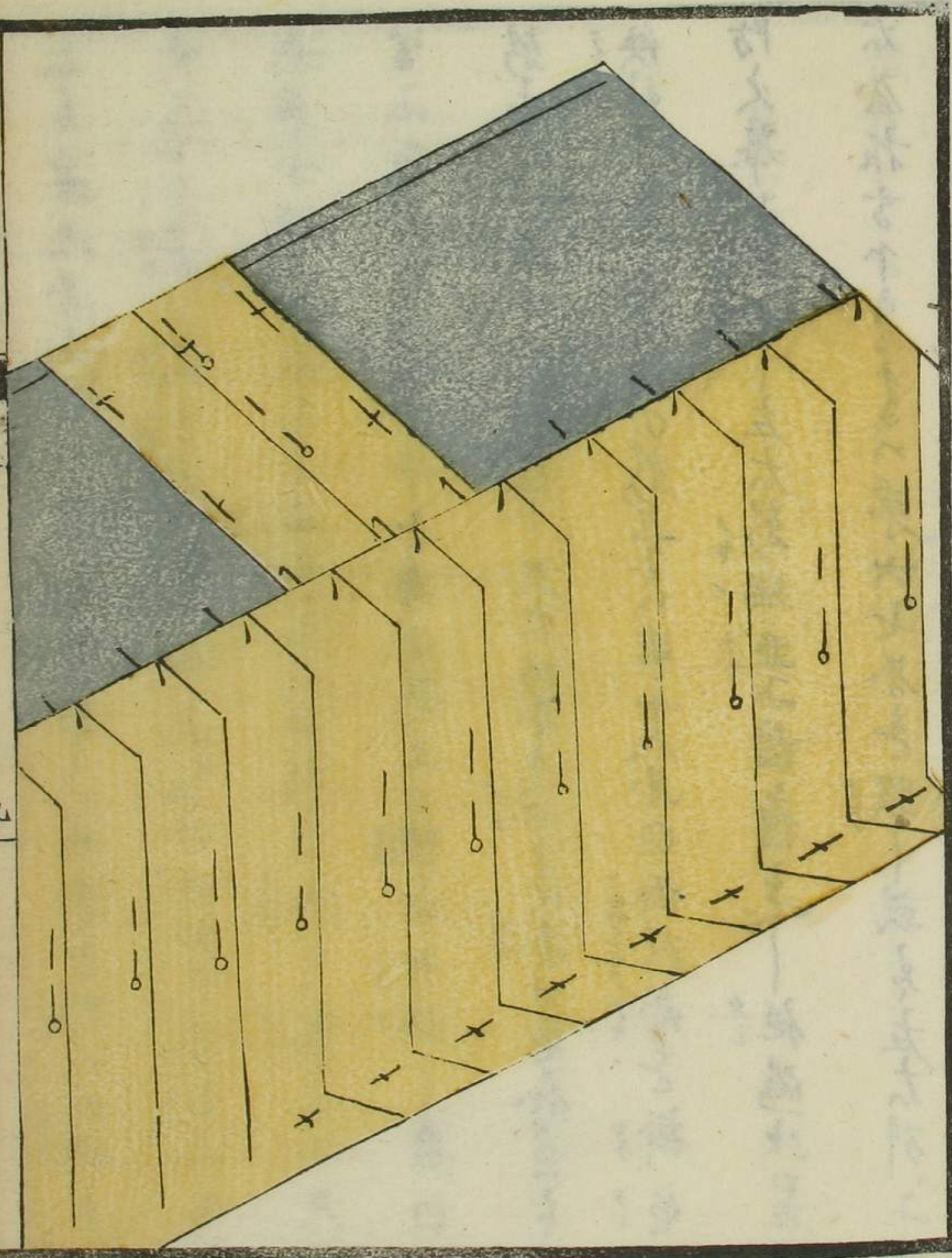
第九 路次新道を防ぐ仕掛の号



右は町家往来を隔て向側より吹く風の火災
を防ぐの法ハ路次或ハ新居等あり町並の

屋根三尺五尺六尺の切目ある處を塞ぐ小
 左右チ上棟ノより新端ノと第十一号の繩階子の形
 なる物を引渡し左木の屋根と同様小志ノを
 次の幅大小小造り適宜ノ小製作し色紙ノを法第
 十一号小妻ノ

第十 右小防火幕を被覆したる号
オホフ

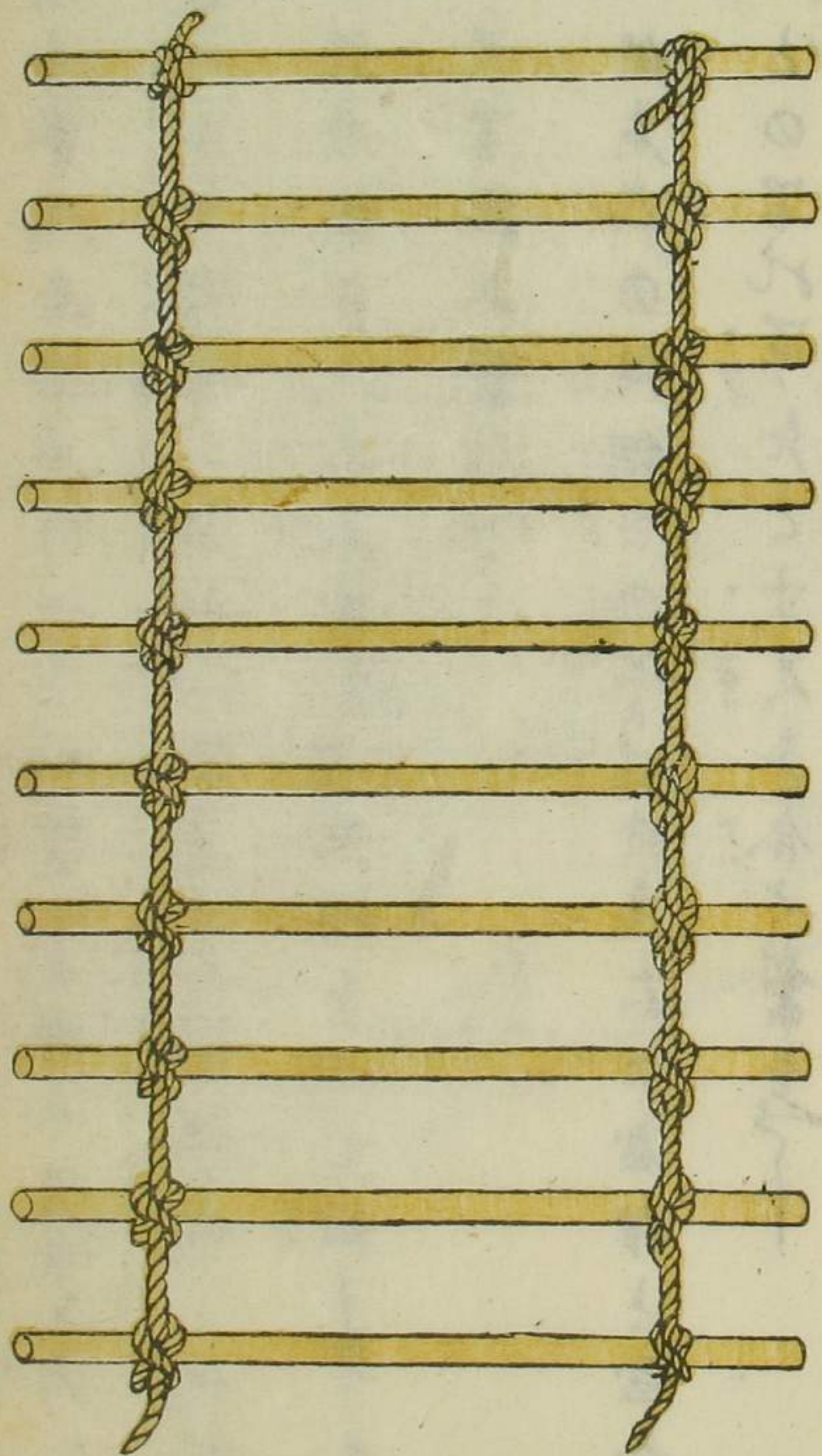


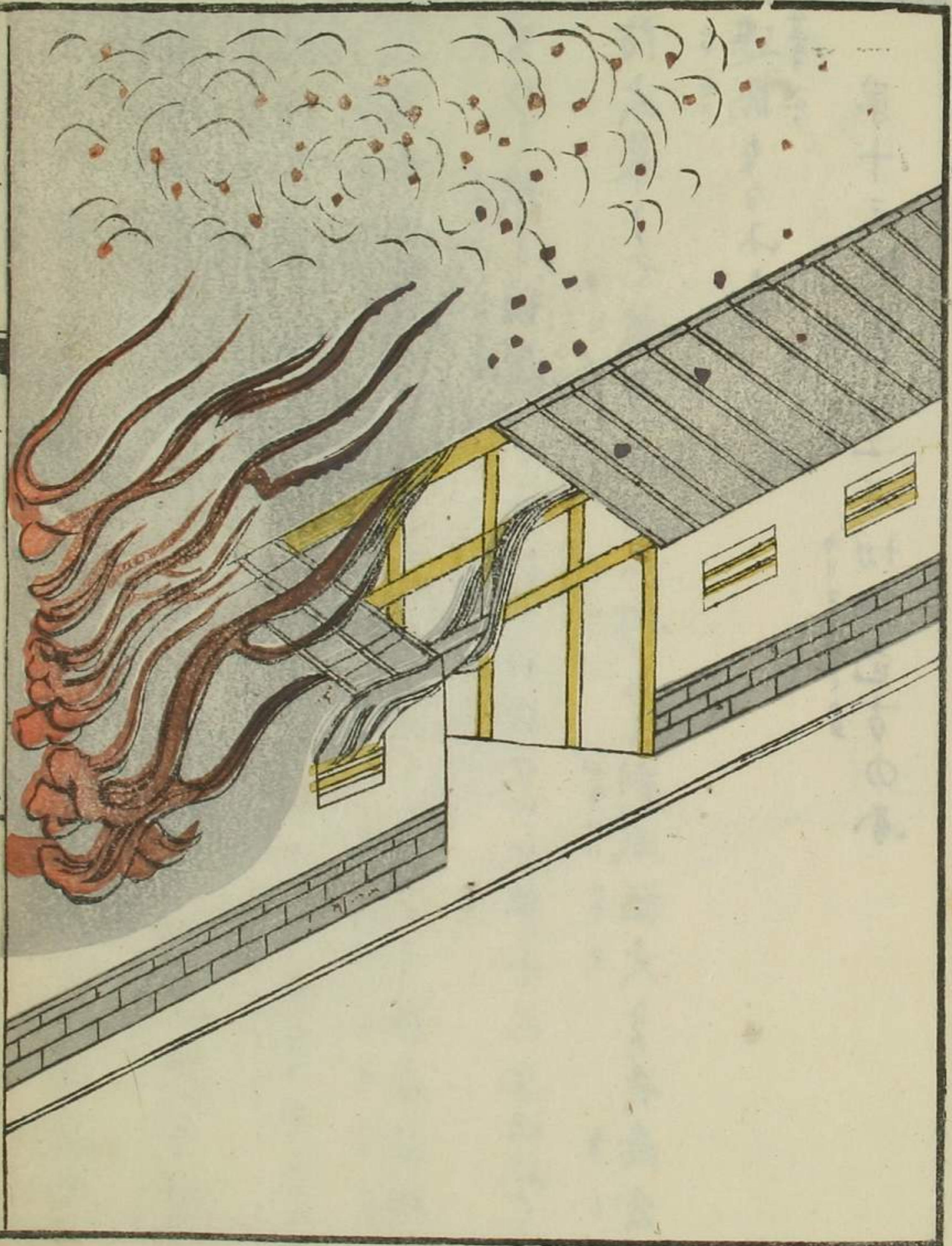
防火幕圖解

六の第九号は防火幕を被覆して往来を隔て向側を
 女^{ヒサキ}の火^{カサシモ}尖^{ヒサキ}を風^{カサシモ}下^{ヒサキ}より防^{ヒサキ}ぐの号は六の如く包む小を
 先第十四号の所より海^{ドム}を左六の形上表より裏と二尺
 留^{ドム}小^{ドム}を防^{ドム}火幕を前の形上棟^{ウチコ}をお^{ウチコ}試^{ウチコ}し裏の
 形上と引^ヒ返^ヒして被^ヒ覆^ヒし左六の形より海^{ドム}より包^{ドム}むは合^ヒ目^ヒを
 鉄^{テツ}針^チを^チ合^チせ^チ前^チの^チ形^チ上^チより第十八号の兩^リ政^キ為^キを掛^キて
 防火幕を終^{ツキ}是^タし左六の形端^{ノキツ}並^ナ小^ナ被^ナ覆^ナさ^ナし他^タ路^タ次^タは
 六の形言^{テラ}下^{テラ}より海^{テラ}の第九号を照^{テラ}し或^{テラ}も左六列^{テラ}小

被^ヒ覆^ヒさる^ヒものよ^ヒしを^ヒ接^ヒ接^ヒ便^ヒ利^ヒし^ヒ路^ヒ次^ヒは

第十一 路^ロ次^ジの^ロ号^ジを^ロ塞^ジぐ^ロ具^ジの^ロ号^ジ





右々第九番路次の口を被覆する時小用巾具之
 是ハ二寸角板カクサキ松マツの小割コワリ等トク製作セイサク志シ長短
 ハ為次幅ハシの大小オホコトを小椽シユロ椽ノ繩ヒモを以もつて綴ズる事コト凡
 一尺イチシヤク留ル繩ヒモ小製コセイ次ジ一ヒト

他左太ナハの繩ヒモ細目アミメの系ナ為次左太ナハの屋根ヤネネと屋根
 との留ル此コノ系ナと寸尺スンシヤクを合アハせ製セイ志シ

第十二 長家切後の事
ナガヤキリノキ

Handwritten mark at the bottom left of the page.

Handwritten mark at the bottom right of the page.



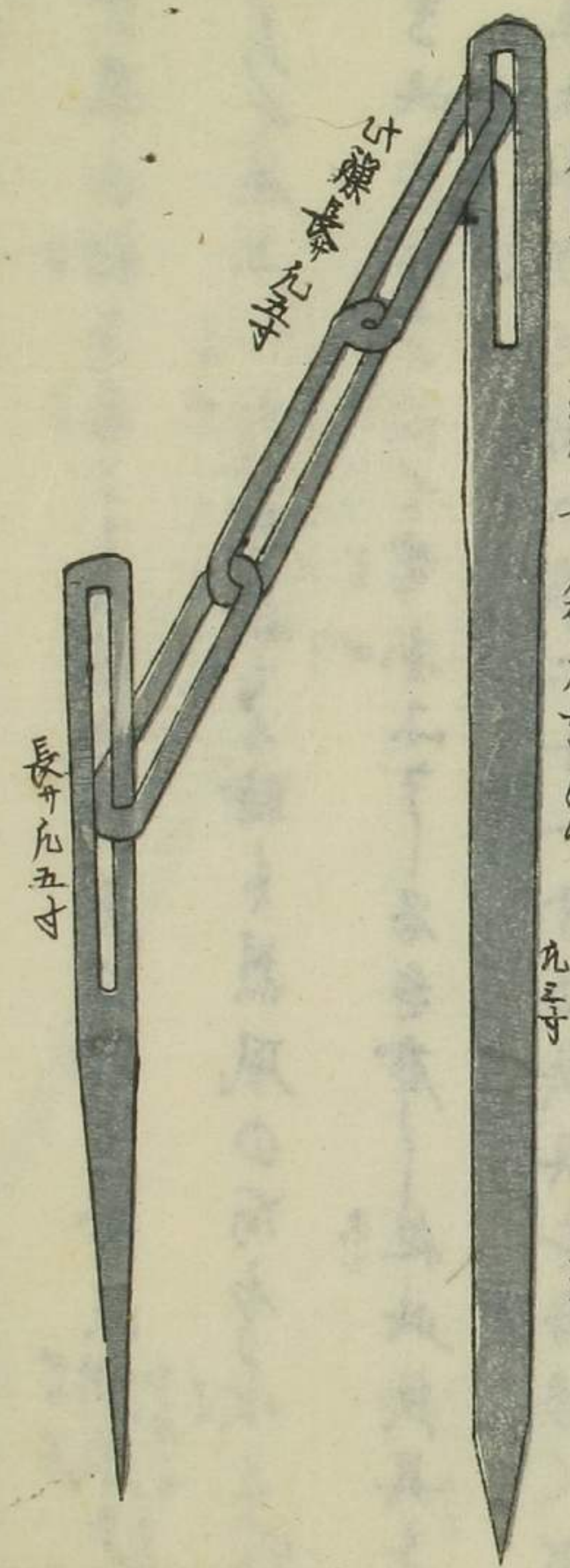
十一

大なる写敷三十写或ハ五十写もある御座敷御座敷長敷
 向小機付大風猛火モエツキとて防ぎ方なき時分の如く遠
 近適宜を足斗キンテキド五六尺の写を手早く尾をめぐり
 板貫垂木イタヌキタルキカベ等あつて床板ユカイタ等悉くたれ敷く棟木梁枅
 等の残し切抜キリヌクぐは切口の裏を第十三号の如く
 防火幕ヒフクとて被覆せば何あつて劇風猛火ゲキフウモウクより失急マシトな
 遮隔シヤカクする小包サキヘ

第十三 大十二号切抜包方の写
キリヌキマミカタ

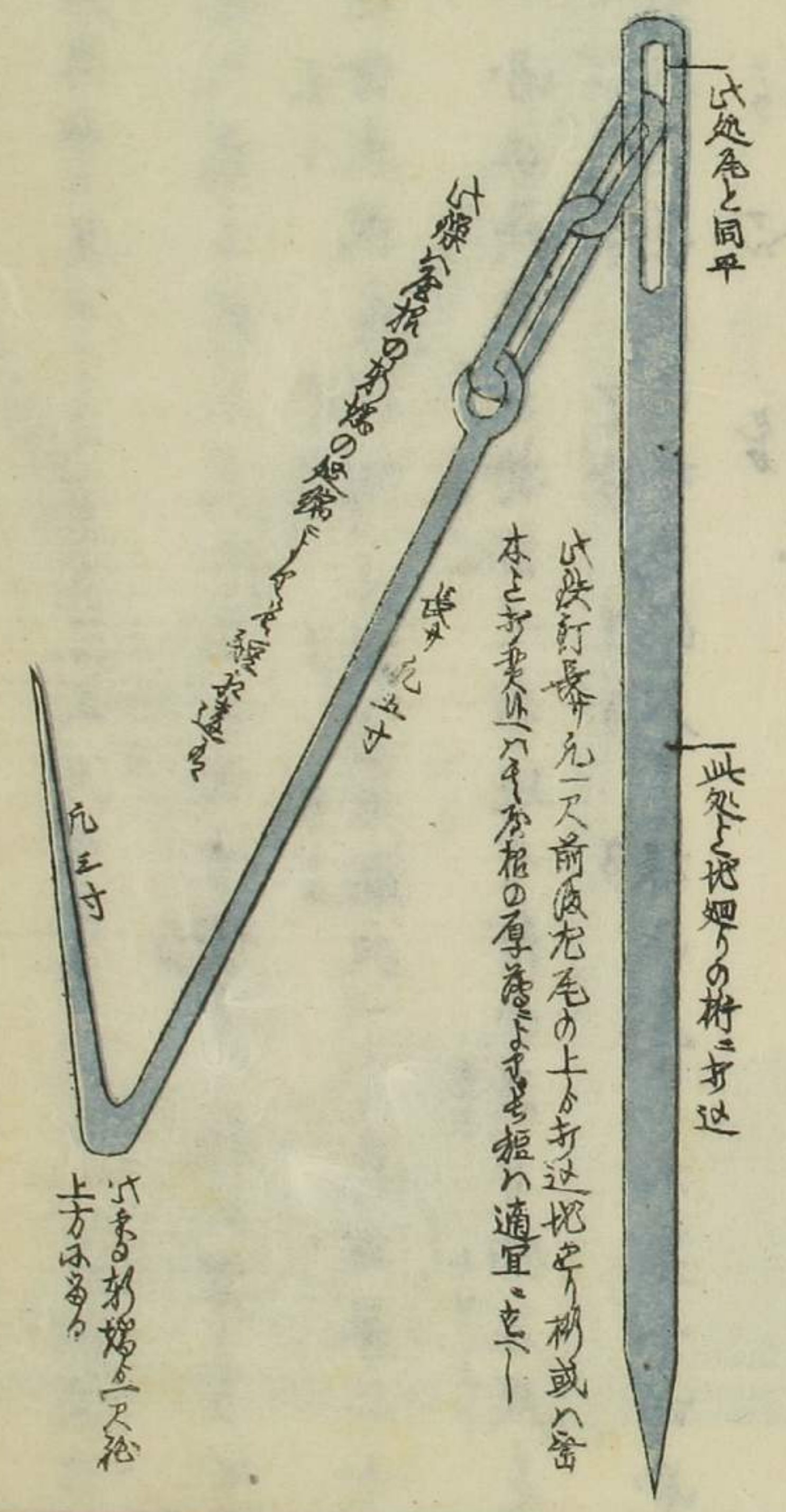
右に第十二号長家切口キヤキ防火幕を被覆ヒフクしたる
 号之は色方ワミカタも防火幕一枚を棟を歩越ウチコへ前後軒
 上カキに約シカ一丈トメキとる位亦棟本チギうつかり号の大小コナは
 防火幕を切抜キリキ第十八号の高形鋸を以て号の如
 く掛垂カケタサ下し合アヘ目も鉄針テツシにてきり為け要の如
 為トりて食の瓦石を重縁オキて押オキへるべし又棟本梁チギ
 桁タテ等も防火幕を以て号の如く各巻マキへ鉄針を
 きり前後軒キヤキ端も第六号の如く包むべし

第十四 板屋根防具為鉄具の如



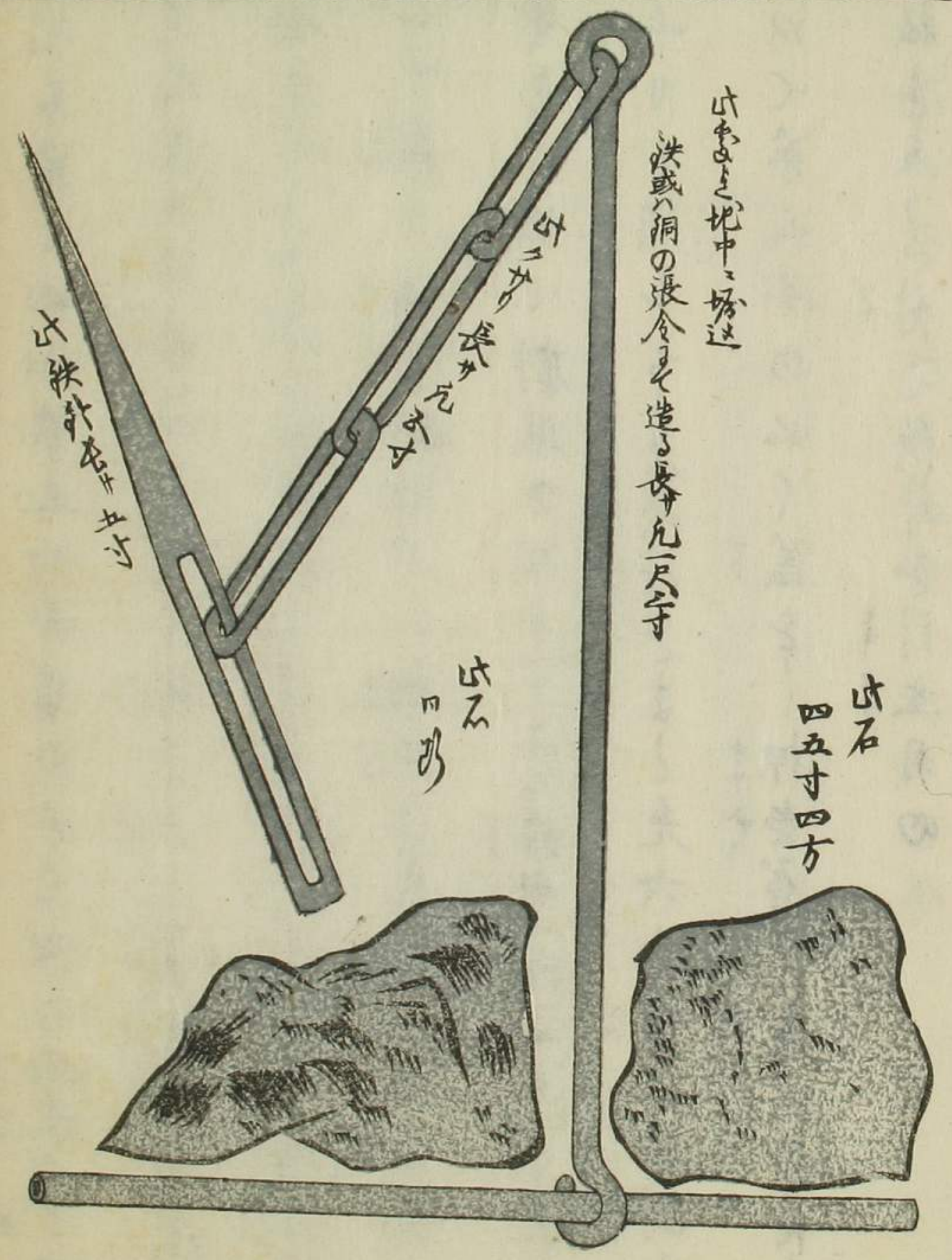
右より第三四号の板屋根小用を^{イタ}びき要此防具^{ドメ}為^{ドメ}鉄具^{ドメ}の^{イタ}あ^{ドメ}又第七八号町並屋板^{イタ}言^{ドメ}下^{ドメ}有^{ドメ}あ^{ドメ}の^{イタ}防^{ドメ}火^{ドメ}幕^{ドメ}の^{イタ}裾^{ドメ}を^{ドメ}あ^{ドメ}る^{ドメ}も^{ドメ}月^{ドメ}内^{ドメ}火^{ドメ}災^{ドメ}の^{ドメ}時^{ドメ}を^{ドメ}必^{ドメ}以^{ドメ}劇^{ドメ}風^{ドメ}多^{ドメ}より^{ドメ}屋^{ドメ}上^{ドメ}一^{ドメ}面^{ドメ}に^{ドメ}被^{ドメ}覆^{ドメ}を^{ドメ}る^{ドメ}時^{ドメ}を^{ドメ}烈^{ドメ}風^{ドメ}の^{ドメ}向^{ドメ}方^{ドメ}吹^{ドメ}ま^{ドメ}く^{ドメ}當^{ドメ}此^{ドメ}鉄^{ドメ}具^{ドメ}を^{ドメ}以^{ドメ}て^{ドメ}穿^{ドメ}あ^{ドメ}ふ^{ドメ}き^{ドメ}を^{ドメ}在^{ドメ}座^{ドメ}一^{ドメ}但^{ドメ}此^{ドメ}鉄^{ドメ}具^{ドメ}を^{ドメ}屋^{ドメ}上^{ドメ}ふ^{ドメ}お^{ドメ}込^{ドメ}込^{ドメ}時^{ドメ}ハ^{ドメ}第^{ドメ}二^{ドメ}十^{ドメ}一^{ドメ}号^{ドメ}の^{ドメ}鉄^{ドメ}具^{ドメ}を^{ドメ}掛^{ドメ}添^{ドメ}く^{ドメ}お^{ドメ}込^{ドメ}ご^{ドメ}あ^{ドメ}が^{ドメ}れ^{ドメ}バ^{ドメ}鉄^{ドメ}釘^{ドメ}の^{ドメ}穴^{ドメ}を^{ドメ}お^{ドメ}小^{ドメ}く^{ドメ}半^{ドメ}を^{ドメ}そ^{ドメ}鉄^{ドメ}釘^{ドメ}を^{ドメ}垂^{ドメ}木^{ドメ}或^{ドメ}は^{ドメ}地^{ドメ}廻^{ドメ}の^{ドメ}柵^{ドメ}を^{ドメ}添^{ドメ}く^{ドメ}お^{ドメ}込^{ドメ}座^{ドメ}一^{ドメ}

第十五 尾屋根防具^{カテヤ子}為^{カギ}の^{カギ}角^{カギ}



大も尾葺の屋根より前後左右軒端廻りを被覆する
 小羽巾具より軒上小三尺留小軒端をへき鉄具の
 角之毛を軒上九一尺五六寸登りて尾の留より軒
 端垂木或も地廻りの枘と軒端へへき亦第二十
 一号の鉄具を持添へ軒上軒の板を油石灰を
 敷遍塗るは雨水の漏入する様小志へ尤第十四号
 を照合せて考ふべし

第十六 防火幕のあり得る鉄具の形



此を地中の穴に
 鉄或は洞の張合を造る長九一尺寸

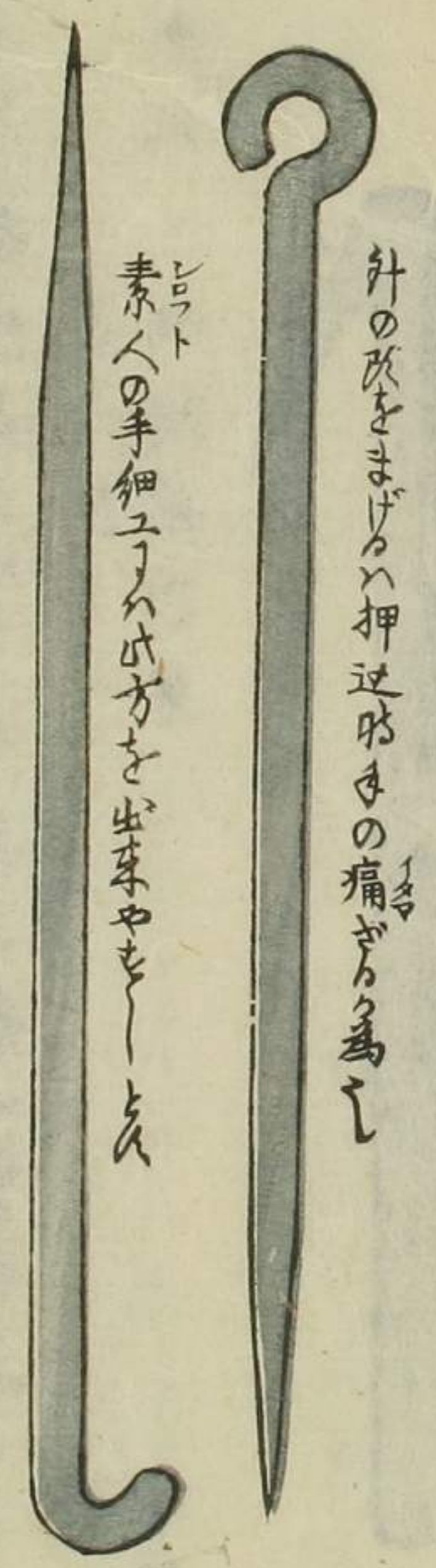
此石
 四五寸四方

此石
 口あり

此鉄具の形

大なる第三四号第五六号の如く家の雨落の下に
 三尺四方伏座防火幕の裾を押へて劇風の向ふ
 吹まくるを防ぐの鉄具之を是れ釘板を平地並に
 一寸厚く掘込家の如く横鉄の左大小石を載せ
 壁處に埋て劇風の向ふに中を掘り込め是亦
 平日も隙をせし先鉄針をまると先六寸幅の板割を
 以て第三号の如く蓋を押し合へて急火の候は
 板を急ぐに付て鉄針を引立用也

第十七 防火幕縫合鉄針の形

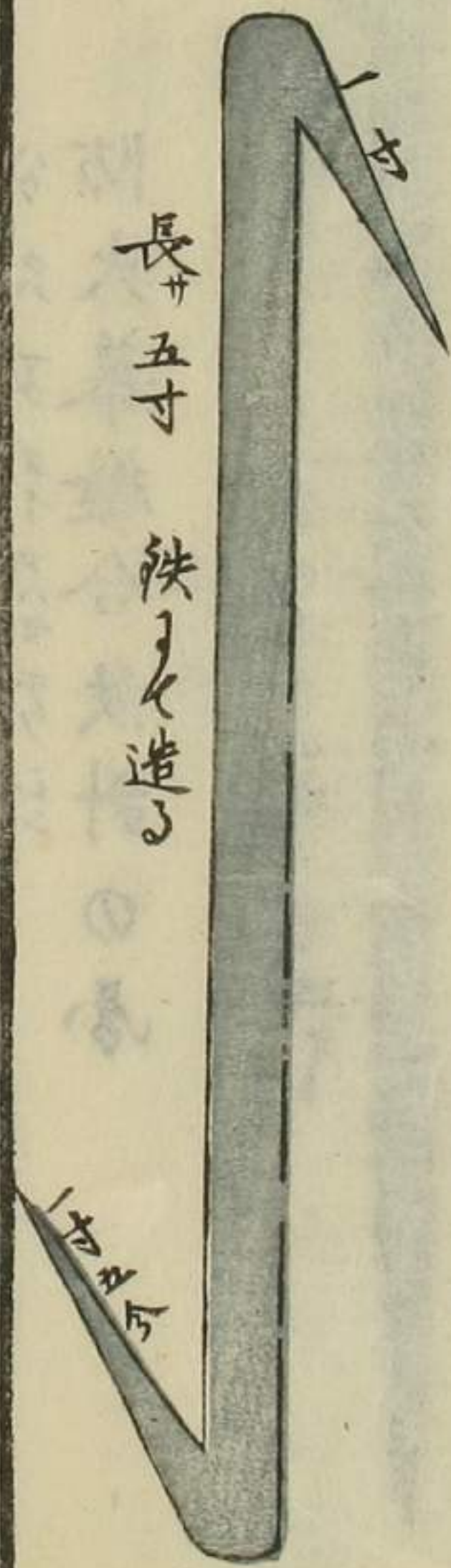


針の形をまげり押し合はすの痛がる為し
素人の手細子の方を出来やまへん

大なる防火幕の合目を縫合せざる為の鉄針の形之を
 防火幕の横幅三尺五寸ある板を五寸を重縁合
 せて此鉄針を以てきり縫合せし劇風の向ふに
 吹まくるを防ぐべきの鉄具之を以て合目の透

間用子のある要を鉄針を以て縫塞ぐ處を敷り敷
 の大小小由て多少あるも割合よりハ三十本或五十本ハ
 餘計小捲へをべし是を手細工に可之太サ板著袖の
 鉄線を長サ八寸小切り一端を折まぎ一端を尻で無
 底おどろく摺付糸の如く針の形小製作志し

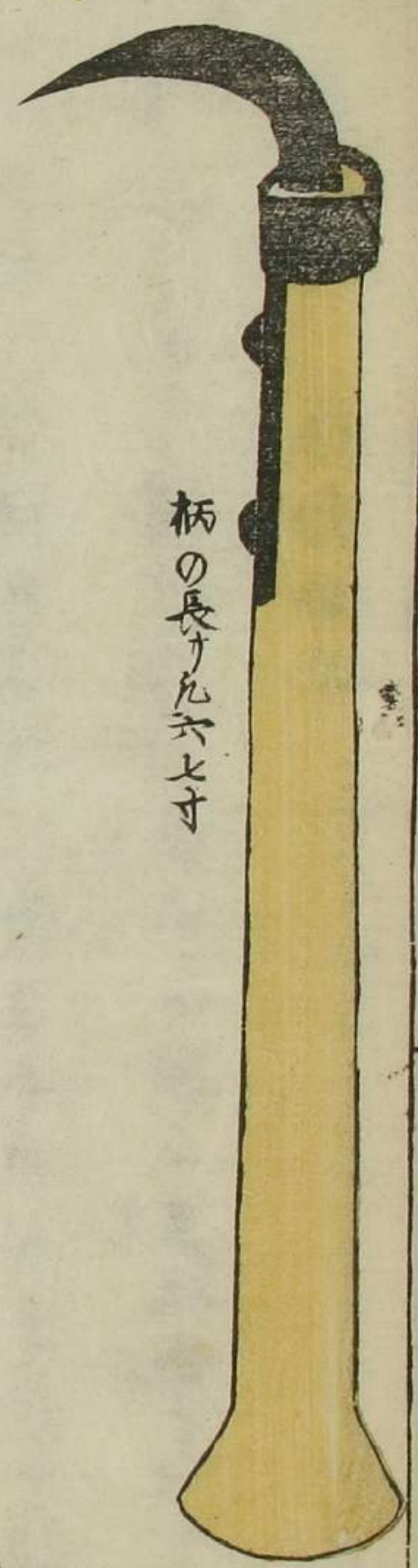
第十八 両頭鉤の形



たる防火幕の紐を縫足次小用ひまの板を根
 一面小被履したる時を折上小此端を三尺留小掛
 く前後左右折廻りを包む小用ゆる鉄具を去取
 の切口を被履する小用四即ち第四号第十号第
 十三号を照し細考志し

此端を掛終足る防火幕の合目筈に小用
 兼透る時を第十七号の鉄針を換小差込塞ぐべし

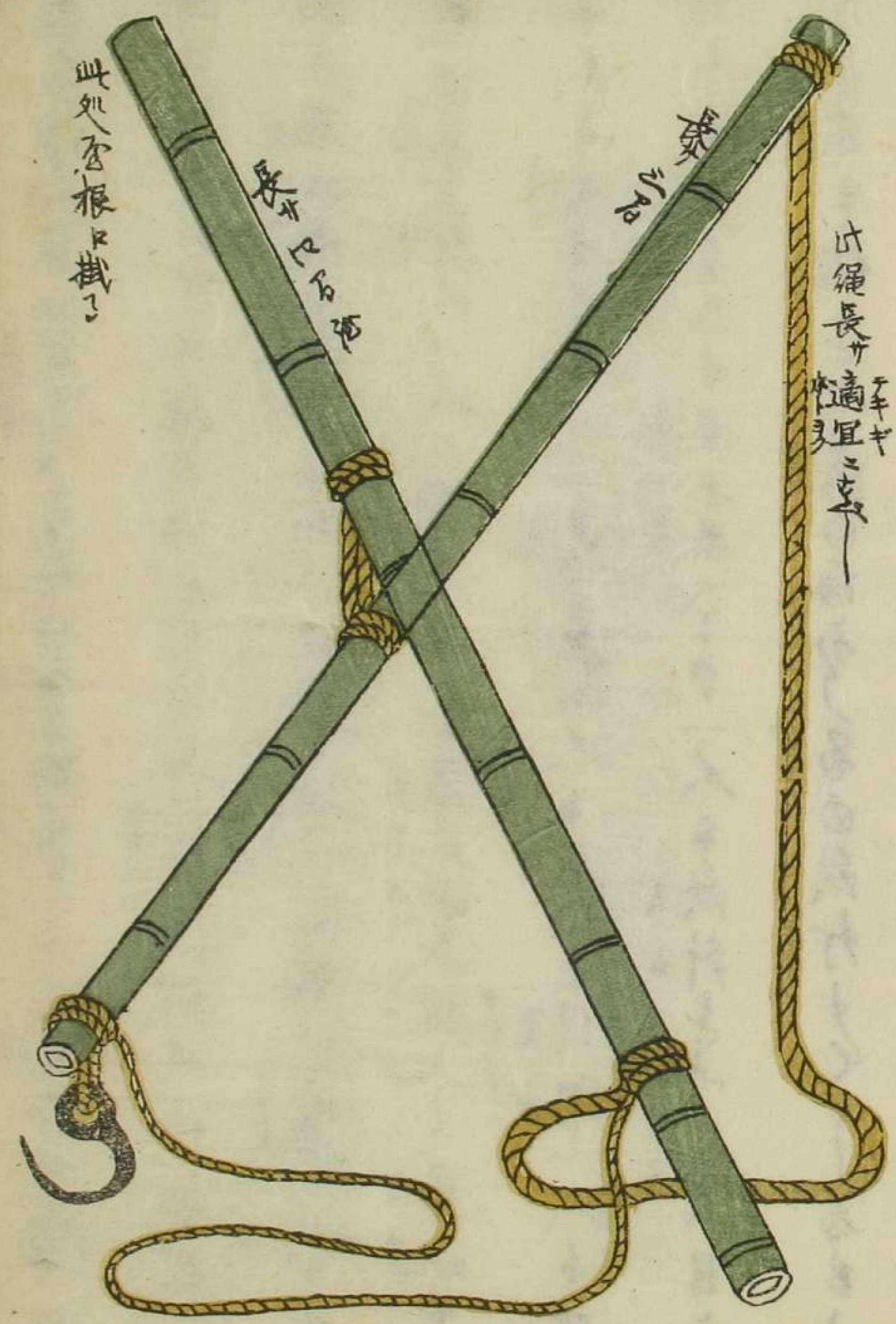
第十九 俵鉤の形



柄の長九六寸

火を防火幕と云ふ扱ふ小必用の具ありて平為形下葉形
 柄の長持より葉の儀短と云ふ扱之魚商人の扱ハ柔弱小
 用小楯より多し此儀短を廉抵して研付成丈短先
 を鋭尖ありて用ゆべし是ハ急ぐに必用意致し
 人是一人小一扱つ扱つ印の事と心得るべし

第二十 火籠の形



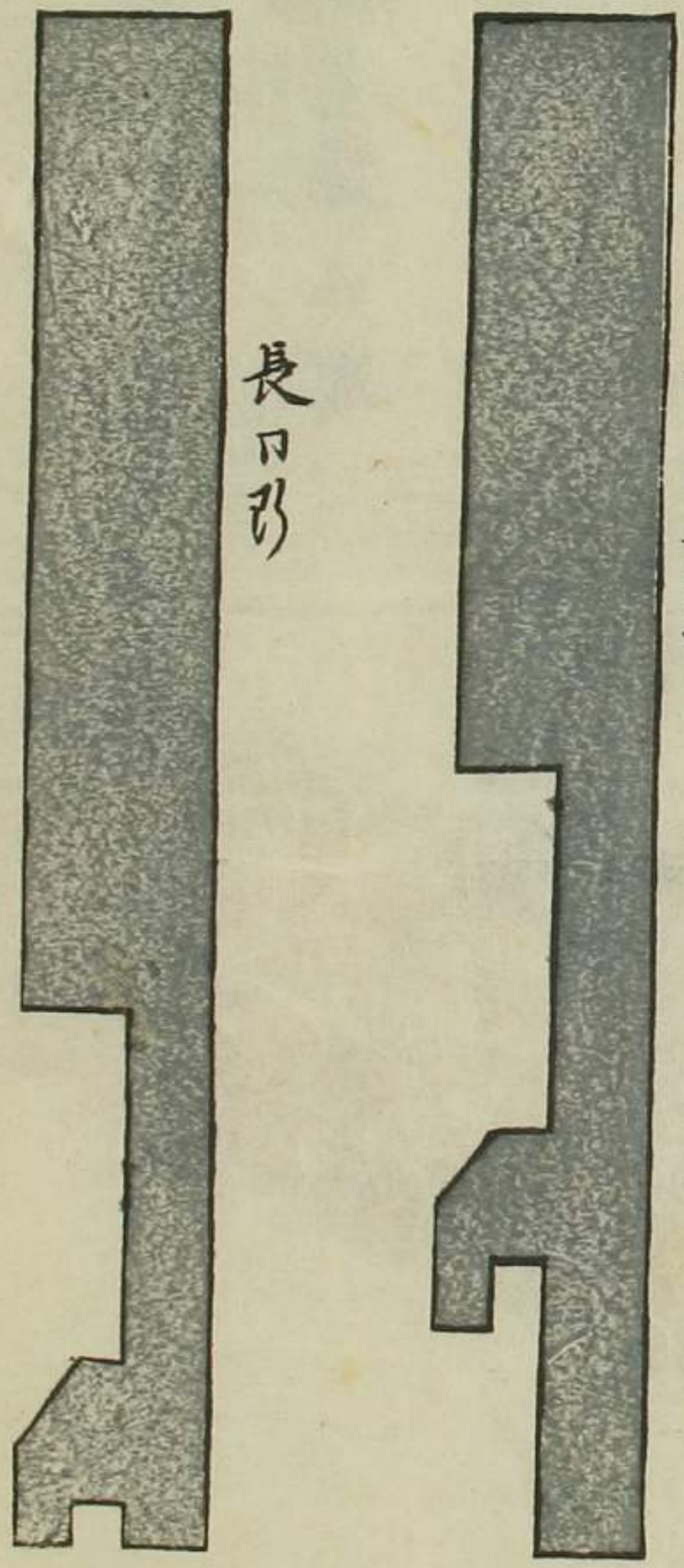
此処を根に掛

右方防火幕を屋上にも係りたる用具ありて堅の竹長サニ
 四半横竹二半半位屋根の下下不た長短大小適宜小
 切り麻の繩より房の如く小製作し新獨小五掛一人ハモ
 竹の元を挿し一人ハ防火幕を法火水不投入し薬水を
 十分小倉せえ出して筒小掛一人を屋上小引揚一人を軒
 の上より交え五寸重小並べし一人ハ鉄針を以て合目
 ありて筒を結し雨風の向あり筒の鉄釘よりきり筒を以
 人は都合五人より十半二十半或ハ五十半の管口也

忽ち色々終るべしき手廻しを速く行へ

第二十一 防具為拵添打込鉄具の爲

長サ九五六寸

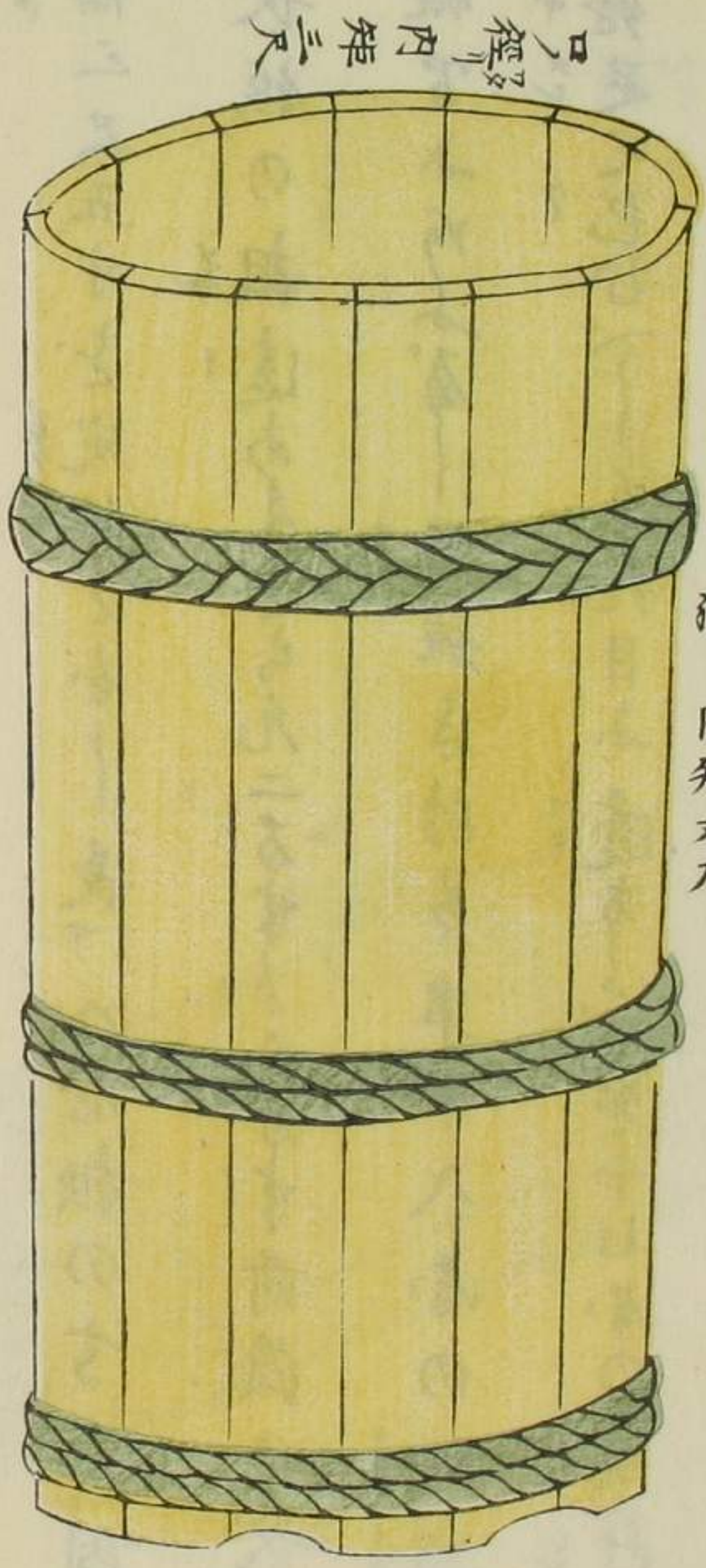


長口形

太長第十四号第十五号の屋根の上防具爲の鉄釘の

根子重^{カサ}終^シ倉^{クラ}防火幕^{シウホウ}造^{ツクリ}法^{ホウ}末^{スエ}不^ク委^ク

第二十三 鎮^{チン}火^カ水^{スイ}を貯^{ツクリ}桶^{カケ}の号^ケ



右^{ミダ}々^ス鎮^{チン}火^カ水^{スイ}を貯^{ツクリ}桶^{カケ}の号^ケ一^{ヒト}寸^{スン}貫^{クワン}

九^ク七^{シチ}挺^{テイ}を以^{モッ}て造^{ツクリ}る^ハ底^{ソコ}と^モ出^デ来^キ次^{ツギ}一^{ヒト}尺^{シヤク}の寸^{スン}法^{ホウ}と

法^{ホウ}火^カ水^{スイ}九^ク五^ゴ石^{シヤク}五^ゴ斗^ト七^{シチ}升^{シヨウ}余^{ヨリ}を^ハ入^イる^ハ一^{ヒト}尺^{シヤク}を^ハ尼^ニ世^セの^ハ新^{シン}下^カ内^{ウチ}

外^{ソト}便^{ベン}利^リ宜^イき^ハ平^{ヘイ}土^{ツチ}中^{ナカ}小^コ堀^コ込^ミ雨^{アメ}水^{ミヅ}塵^{チン}芥^{カイ}苔^{ケイ}の^ハ入^イる^ハ桶^{カケ}不^ク蓋^{カサ}

を^ハ一^{ヒト}尺^{シヤク}上^{ウエ}面^{メン}を^ハ平^{ヘイ}乃^ノ黄^{ワウ}乃^ノ一^{ヒト}尺^{シヤク}も^ハ苦^ク一^{ヒト}寸^{スン}を^ハ桶^{カケ}不^ク蓋^{カサ}

一^{ヒト}尺^{シヤク}桶^{カケ}薬^{ヤク}水^{スイ}を^ハ貯^{ツクリ}る^ハ時^{トキ}々^ト數^{カズ}百^{ヒャク}年^{ネン}を^ハ短^{ミダ}く^シ朽^ク腐^フの^ハ患^ヰ

な^ラ一^{ヒト}尺^{シヤク}鎮^{チン}火^カ水^{スイ}五^ゴ石^{シヤク}を^ハ以^{モッ}て防^{ボウ}火^カ幕^カ九^ク百^{ヒャク}枚^{マヅ}を^ハ浸^{シメ}火^カ倉^{クラ}

薬^{ヤク}水^{スイ}代^{ダイ}浪^{ナミ}九^ク二^ニ拾^{ジュウ}五^ゴ分^{ブン}と^モ三^{サン}十^{ジュウ}分^{ブン}前^{ゼン}後^ゴと^モ出^デ来^キ次^{ツギ}一^{ヒト}尺^{シヤク}の寸^{スン}

鎮火水

予曾く樽の古きものを碎き薪とあし火中不投せ
 とも更サラ小燻モエうらうらび爰コ小於イて其標シラの由来ユライを吟味ギンミ
 ける小其以前イハクフフヤ前豆腐屋トシゴロニガシホジウ年来イレフキ苦沙汁イレフキを入るる
 其の古き標タルの中ヨシホに是ヨリ不固ヨリて又試シロふ猛劣モウレツあり炭火スミビ
 小苦沙汁ニガシホジウをそめて消火セウカせしめ其消炭ケシズミをまた火中
 不投トウし風アホを以て扇アホぐ小火サラを更サラふらうらび始ハジメて苦沙ニガシホ

汁シラ小鎮火チシホの奇功キコウある事を發明ハツダイし更サラ小西洋奇術セイヨウキジツの
 譯書ヤクシヨを以て檢閲ケンゲツする小書シヨチ中ニ小鹽酸加里エリサンカリの水ミヅ中ニ
 溶解ヨウカイしたるものを鎮火チシホの用ヨリ小放ホウコ火カ小許シヨウキョの藥水ヤクスイタ多ク
 分の水ミヅ小勝マサるの奇功キコウありとて其色シカとも鹽酸エリサン加カ
 りを製セイせんとする時トキを費ツキ亦モト少シあうらうら比ヒ取邦トクニの
 苦沙汁ニガシホも鹽酸加里エリサンカリを合マシせ申マシ元ゲンより多クし放ホウ小法ホウ
 火の奇功キコウある事コト塩酸加里エリサンカリ水ミヅ小聊シヤウ々クニ異イあり申マシ候コト
 此苦沙汁ニガシホハ濱海ヒシカイ塩竈シホガマより食塩シヨウエンを製セイしたる其の

火尖を防止し諸人火災の大害を脱せしめん
 欲以因く思へ小上州野及辺の色鄙僻地の農民貧
 窮の家より床上の敷物不用る事の蒙籍と唱る厚
 越多今迄小倣小為又一等精密手丈夫の造り方を
 工夫先太ッ小指紐の繩を縦より能く折れ
 たる蒙三十根斗を二手小糸をかましく編付を厚サ
 凡一寸斗り小糸一聊々透写がき根を念入仕立べし他
 横幅三尺五寸を度し長サの房根の言サ小糸凡

二箇半より三箇半前後小造るべし平日ハ第廿二号の如
 く小巻ノ中程を繩より結び家を周囲留敷ニ引
 合せ敷十枚用意致し急火の言え出し方便利せし
 場瓜を考へ定て貯へをべし
 ○手過りく出火し初發燃ゆがらんとする時此防
 火幕を手早く焚火水小投入し火上ニ被覆せ即
 時小焚火を
 ○万々一急火りしハ防具拭りの人足一人を階子を

拭く屋上カケに登り第一二番の櫓カサの櫓カサを帯オビ掛カケ第十
 九番の儀オハラカキ約カサを帯オビ掛カケ一人ハ第二十番の儀カサ約カサを軒キ
 端ハシ立掛タテカケを根ネを押オシ一人ハ第十七番の儀カサ鉄テ針シを華ハ袋ゴ
 小入腰イレコシふさげ踏フミ臺ダイを掛カケ出デ一人ハ防火幕カサを鉄火
 水ミヅ小扱入トウニウ一十分小汲シビ濡ニ一薬汁ヤクシウを合アせ順ジぐり小引ヒキ
 何ナニ第一一人ハ汲シビ濡ニ一なる防火幕カサを掛カケ運ハぶ儀カサ約カサ小
 掛カケて屋上オウ小引揚ヒキ屋上カサの人足儀オウ約カサふりけり引ヒキ九第
 五番第十五番の儀カサ約カサを五寸

小重終シビ頃次シビ並ナべ掛カケ踏フミ臺ダイの人足オウ鉄テ針シを以モて終目シビ
 を差サシ徹ト一第シビ四第シビ六番の儀カサ約カサ又マタ手テ襦スをバ第
 四番第六番の儀カサ約カサ第十六番の儀カサ約カサの儀カサほり為ドの鉄テ針シ
 差サシ徹ト一儀カサ約カサを儀カサ約カサ第三四番より第十
 番とを参考サシを儀カサ約カサ一
 ○太防具掛カりの人足オウハ十番二十番の長ナガ尺シを被カ履キ
 する人も人足五人何ナニもが十トウ分ハ手テ口ク一儀カサ約カサ一儀カサ約カサ
 二番三番位イの小コ儀カサ約カサ二人三人ニ人ヒトも行ユキ馬ウマ一儀カサ約カサ一

○屋根格列カクバツ小高くして防火幕ミヅカ短くする時
第十八号の両頭角を以て徒掛ツギカケべし若徒目モシメ不透スキアラを
第十九号の鉄針を横小差ヨコサシをばし

○市中町幅シチウチマツ凡三百前後あるを以て向側ムカウガハを吹く
火尖ヒサキを遮り防フセぐ小を防火幕を一重通り色ヒトエドボを火勢強クハセイツヨ
きまは左なる竜吐水リウドネを以て防火水ヒヤクスイを以て宛洒ツツぎ掛カケべし
必何イカある劇風ゲキフウ猛火の火尖ヒサキを以て二重に被覆し猶火勢
烈ヒしく見ゆるを以て防火水ヒヤクスイを以て宛洒ツツぎ掛カケべし濡ヌラを時々

決して類焼ルイキヤウの患ウエを免ユはすべし

○五尺三尺の狹セバき路次ロジを限カキり遮隔シヤカクする小を防火幕
三枚重カサねて被覆し猶火勢ヒヤク烈ヒヤクしきまは左
なる洒ソぎかくを以て決ケツして焼格ヤクカクの患ウエを免ユはすべし

○木戸キドなるを以て手早くお放ウチバシ次へし若トリは拂ハラひ給タマひ
時トキは第十二十三号の長さ切接キリズキの法ホウを参考サンカウし
防火幕ヒヤクミを以て被覆フクフすべし

○忍シび返カヘし暖簾ノレン掛カケぎを以てお放ウチバシしを拂ハラふべし

招牌^{カンバン}抽^{モリ}干^{ホシ}火^{ホシ}の足^{タマ}者^マハそ^マ俵^マ小^マ色^マに被^ヒ履^ス走^ス板^{イタ}塀^ベ垣^キ
根^ネ者^マ取^マ拵^マ終^マ言^マ名^マ色^マ俵^マ色^マむ^マ走^マ

○烈風^{カザシモ}猛火^{イタ}の風^{カザシモ}下^{イタ}りて板^{イタ}屋^{イタ}根^{イタ}庇^{イタ}雪^{イタ}強^{イタ}芥^{イタ}溜^{イタ}そ外^{イタ}終^{イタ}
て飛^{トビ}火^ヒの恐^{オソ}きある者^マハ防^マ火^マ幕^マを以^マて一^マ枚^マ通^マり被^マ

履^マ走^マ竹^マ本^マ炭^{スミ}薪^{タキ}の言^マ積^マ者^マを勿^マ論^マ町^マ並^マの如^マく
一^マ色^マ小^マ被^マ履^マ走^マ

○市中^{ハシ}橋^{ハシ}類^{ハシ}焼^{ハシ}の恐^{オソ}きある者^マハ橋^{ハシ}富^{ハシ}の役^{ハシ}と
被^マ履^マ走^マ諸^マ人^マ通^マ路^マ差^マ支^マなく怪^マ我^マるの患^マなり

○塗^{ヌリ}家^ヤ土^ド瓦^ガも壁^{カベ}も瓦^{カベ}も瓦^{カベ}類^{カベ}焼^{カベ}の恐^{オソ}きある者^マハ第^チ
四^チ第^チ六^チ番^チの如^チく被^チ履^チ走^チ

○太^{フト}の如^{フト}く悉^{フト}く被^{フト}履^{フト}走^{フト}る時^{フト}も新^{フト}端^{フト}を根^{フト}裏^{フト}小^{フト}窓^{フト}戸^{フト}
床^{フト}下^{フト}者^{フト}ト吹^{フト}入^{フト}燃^{フト}走^{フト}るの患^{フト}なく飛^{フト}火^{フト}も燃^{フト}立^{フト}恐^{フト}きも

なく人^{フト}々^{フト}家^{フト}具^{フト}を拵^{フト}運^{フト}び逃^{フト}出^{フト}次^{フト}小^{フト}も及^{フト}び病^{フト}者^{フト}盲^{フト}
人^{フト}小^{フト}兒^{フト}老^{フト}人^{フト}皆^{フト}殆^{フト}倒^{フト}きり拵^{フト}の按^{フト}思^{フト}もなく諸^{フト}人^{フト}安^{フト}堵^{フト}

して心^{フト}を静^{フト}め手^{フト}順^{フト}よく遮^{フト}隔^{フト}防^{フト}消^{フト}きるが故^{フト}小^{フト}人^{フト}夫^{フト}
も餘^{フト}も多^{フト}く速^{フト}ふゆ届^{フト}く危^{フト}し又^{フト}防^{フト}火^{フト}幕^{フト}二^{フト}枚^{フト}重^{フト}拵^{フト}小^{フト}

被覆する時を聊う烟氣の徹する事なくを蔭す
如何の働も心の欲する俾あるを

○地主地借家持の各々其の防具各々用意致し
尚其上のいろは番組の火消方も延くして元留口三

十百を被覆する程の防具を用意して市中出火の
最手早小掛寄る時を如何ある劇風猛烈の火勢あつても

火尖を為むと欲する事なく必以遮隔防消し防火の
功を以て幸莫大あるべし又如何ある猛火ふても

火消人夫不怪家人焼死人者更ふあく勞少くして功
を立する事と大也殊小大切の

御場所書を遮隔防消せんよと殊更必要の法術と
云

○防火幕も地主家持いろは延く外は各町所并
其家の中を記し延く隣家隣町持寄の最遠

行き指せんが為あり
○防火幕一室用心の時を流水小溜しを率一書

夜^ヤヲ^{ナラ}テ^テ猶^{ナラ}水^{スイ}中^{チュウ}ニ^ニ小^コ火^カヲ^ヲ足^ツシ^シテ^テ踏^{フミ}去^クル^ルヲ^ヲ鎮^{チン}火^カ藥^{ヤク}
 の氣^キ味^ミ悉^{シツ}ク^ク抜^キ去^クテ^テ後^{ノチ}太^{タイ}陽^{ヤウ}晴^{セイ}日^{ニツ}小^コ乾^{カン}一^{イツ}元^{ゲン}の^ノ如^ニク^ク
 貯^{タク}ム^ム所^{ショ}一^{イツ}藥^{ヤク}氣^キ抜^キズ^ズル^ル時^{トキ}ハ^ハ雨^{アメ}天^{テン}の^ノ昔^{シメ}濕^{シメ}リ^リを^ヲふ^クク^ク
 忍^{ニシ}テ^テ朽^ク腐^フ小^コ至^シル^ル所^{トコロ}一^{イツ}

防火策圖解卷之下 畢

